

ネギ葉枯病の発生生態と総合防除対策

(本文 45 ページ参照)



①黄色斑紋病斑



②先枯れ病斑



③斑点病斑

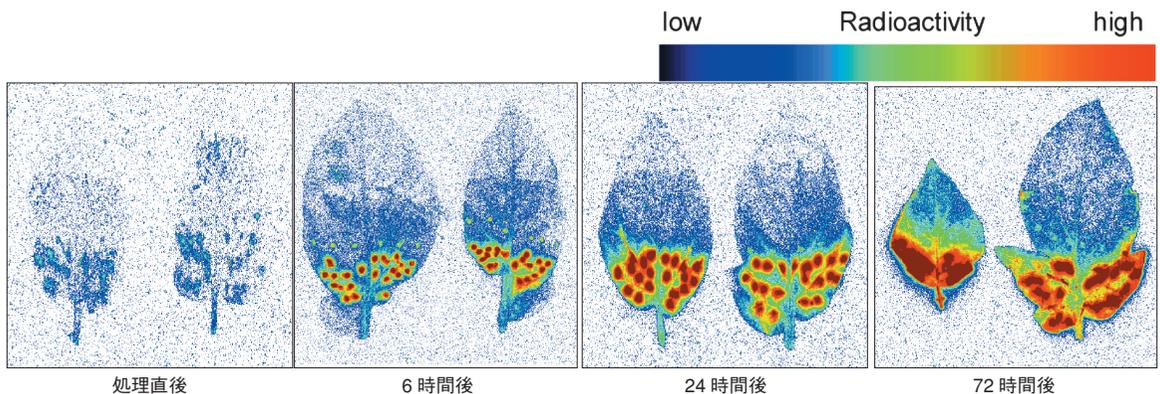


④黄色斑紋病斑上のネギ葉枯病菌 (*Stemphylium vesicarium*) の分生子

三澤中央氏原図

新規殺菌剤マンジプロパミドフロアブルの特徴と使い方

(本文 57 ページ参照)



バレイショ葉の葉肉組織へのマンジプロパミドの浸達と拡散 (シンジェンタ社, 2001 年)
 —バレイショの葉の表表皮に ^{14}C 標識マンジプロパミド溶液の液滴を 1 μl ずつ 20 箇所滴下し、
 暗黒下で管理、経時的にワックス層を除去し、蛍光像解析機で観察

林 敬介氏原図

光学顕微鏡の使い方

(本文 54 ページ参照)



①プレパラートに焦点を合わせ、光源絞りを絞り込む。



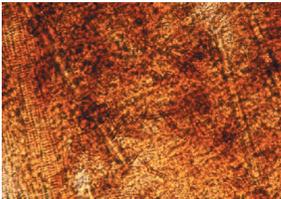
②コンデンサーを上下させて多角形の光源絞り像が見えるようにする。



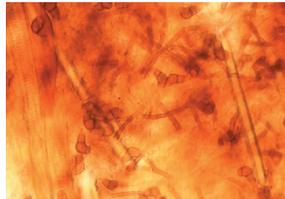
③光源絞り像を視野中央に合わせる。



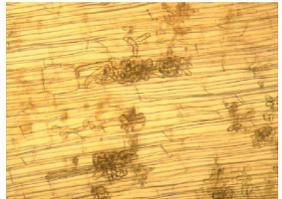
④光源絞り像を視野に外接させて観察する (ネギ黒斑病)。



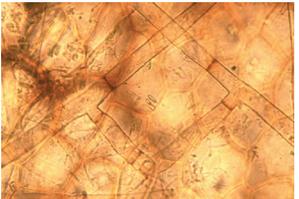
⑤コンデンサー絞りを絞った状態。



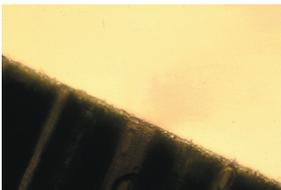
⑥⑤と同じ焦点で絞りを全開にした状態。病斑上に形成された *Curvularia* の分生子が見える (グラジオラス赤斑病)。



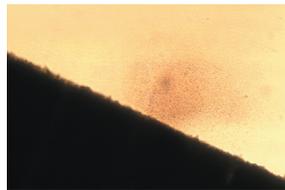
⑦宿主組織内の *Pythium* 菌体 (イネ苗立枯病)。



⑧宿主表皮上の *Rhizoctonia* 菌糸 (宿主はプロッコリー)。



⑨開口度 80% で観察した状態。宿主の導管が見える。



⑩⑨と同じ焦点で開口度 25% まで絞り込んだ状態。細菌の流出がよく見える (イネ白葉枯病)。



⑪開口度 90%、分生子の 6 本の枝のうち 3 本は不鮮明である (水生不完全菌 *Actinospora megalospora* の巨大分生子)。



⑫開口度 80%、不鮮明だった 3 本のコントラストが高まり、巨大分生子の全容が見えてくる。



⑬開口度 50%、分生子の 6 本の枝が鮮明に見えるが、同時に周囲に分散する別種分生子 (水生不完全菌 *Alatospora acuminata* の微細分生子) の写り込みも多くなる。



⑭コンパクトデジタルカメラで撮影した画像 (*Entomosporium mespili* の分生子)。



⑮開口度 25% に絞り込んだ画像。



⑯開口度 90% に絞りを開いた画像 (*Phragmidium* sp.)。



⑰十字型の構造を微分干渉顕微鏡で撮影。X 軸方向のコントラストが低く、Y 軸方向のコントラストが高い。



⑱⑰からステージを 45 度回転させて撮影。コントラストが均等になる。



⑲⑱撮影後、鏡筒上のカメラを回転し、⑰と同じ構図で撮影したもの (水生不完全菌 *Lemonniella terestris* の分生子)。